

13新たな時代を見据えた森林・林業イノベーションの創出について

【農林水産省・林野庁】

長野県の状況

●時代の変化を捉えた森林・林業政策の推進

- ・ 県土の8割を占める森林は、人工林の8割が利用期であり、充実した森林資源を活用する林業の成長産業化が必要
- ・ 77市町村のうち49市町村が山村であり、森林の多面的な利用による山村地域の価値の向上が必要
- ・ 台風等による人命に関わる激甚災害が頻発しており、県民の命を守る県土の強靱化が一層必要

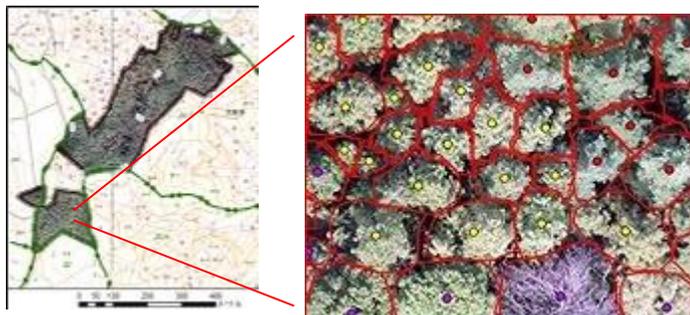
取組

○林業成長産業化の推進

- ・ 主伐後の再造林コストの低減に向け、ドローン等による施工管理の省力化を実証



- ・ レーザー測量で取得した森林情報を活用し、付加価値の高い広葉樹の伐採・搬出を検証



○森林サービス産業の推進

- ・ 森林の多様な機能を活用し、観光や健康、福祉、教育などの多様な分野での活用を推進



森林セラピー（健康づくり）



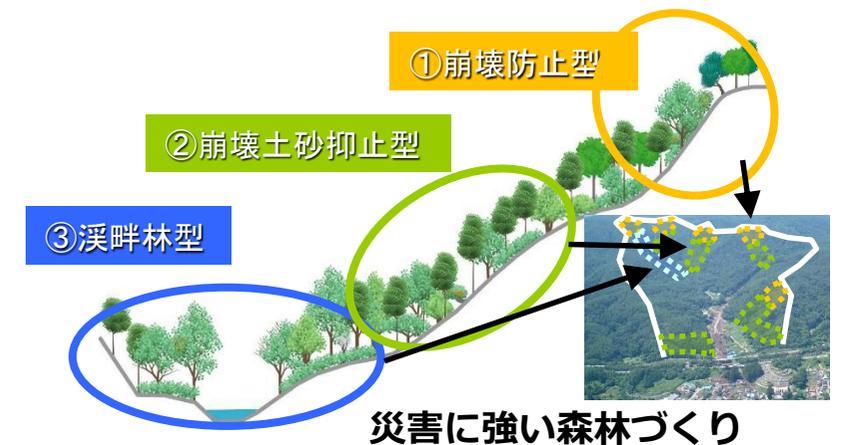
森林の観光利用



信州やまほいく

○防災・減災の森林づくりの推進

- ・ 災害に強い森林づくりに向け、土砂災害防止機能を発揮すべき森林を3つに分類、危険個所を抽出し整備



災害に強い森林づくり



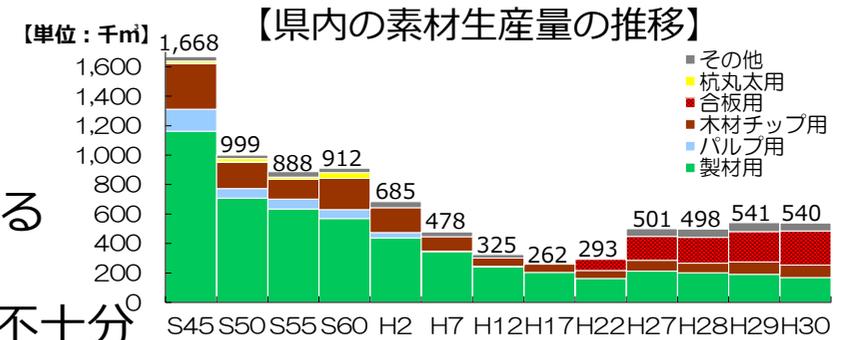
航空レーザー測量を活用したCS立体図

課題

■ 素材生産量と労働生産性の伸び悩み

- ・ SCMを視野に施業現場を継続的に確保し、林業従事者が安心して働ける環境を作る **経営センスを持った意欲と能力のある人材が不足**
- ・ 川上と川中・川下の連携、情報や情報機器、高性能林業機械、路網の基盤整備が不十分

平成30年度末 1,499人
(前年度末比△95人)



■ 山村地域の資源を生かした地域づくり

- ・ 森林を核とした独自の売りや固有のつながり、継続性の仕組みが必要
- ・ 高齢化・過疎化が進み人が少ない中、**リーダーの発掘・育成、都市部や地域外の人材をつなぐ仕組みが不足**

【労働生産性の状況(平成31年3月)】

区分	労働生産性(m³/人日)		路網密度(m/ha)
	間伐	皆伐	
長野県	4.16	6.83	20.8
全国	4.17	7.14	25.1

■ 激甚災害化を軽減させる予防措置

- ・ 森林の成長に伴う倒木や流木リスクの軽減に向け、未整備の山地災害危険箇所の整備
- ・ 道路や河川等、地理的条件の良い公共工事が多数ある中、**治山事業の入札不調が頻発**

【山地災害危険地区の着手率(令和2年2月)】

4,786 / 7,253 箇所 (66%)

提案・要望

1 林業成長産業化の推進へ向けた支援の拡充

(1) スマート林業の普及・定着に向けた支援制度の拡充

モデル地域での人材育成等の横展開を図る支援、スマート林業をはじめとする林業イノベーションのための 情報基盤の整備や機器の導入に向けて予算の拡充を図ること

(2) 収益性の高い林業の実現に向けた予算の拡充

生産性の向上と安全性の改善を図るため、高性能林業機械の導入及び林内路網整備に対する予算の拡充を図ること

(3) 木材需要の拡大に向けた技術開発や予算の拡充

新たな木材需要の創出へ向けた 製品・技術の開発、公共建築物の木造化・木質化に向けた予算の拡充を図ること

2 森林サービス産業の推進へ向けた支援の拡充

森林を多様な分野で活用する「森林サービス産業」の定着に向け、都市部と地方をつなぐプラットフォームの構築を進めるとともに受入れ体制の整備に向けた人材育成や施設整備等の支援策を講じること

3 防災・減災の森林づくりの推進へ向けた支援の拡充

命を守る県づくりに向け、山地災害の危険箇所に係る知見・情報の提供、伐採後の植栽に係る支援制度に対する予算の拡充、治山事業への多年度債務(複数年契約)制度の導入を図ること